

# 東庄町平山堂内遺跡

—地方道路交付金委託(旭笹川線)埋蔵文化財調査報告書—

平成21年3月

千葉県県土整備部

財団法人 千葉県教育振興財団

とうのしょうまち ひら やま どう ない い せき  
東庄町平山堂内遺跡

—地方道路交付金委託(旭笹川線)埋蔵文化財調査報告書—



## 序 文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県教育振興財団調査報告第619集として、千葉県県土整備部の地方道路交付金委託（東庄町県道旭笹川線歩道整備）に伴って実施した東庄町平山堂内遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、古墳時代や奈良・平安時代の住居跡、中世の溝状遺構が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また郷土の歴史を理解するための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成21年3月

財団法人千葉県教育振興財団  
理事長 福島 義弘

## 凡 例

- 1 本書は、千葉県県土整備部による地方道路交付金委託事業（東庄町旭佐川線歩道整備）に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、香取郡東庄町平山宇堂内673他所在の平山堂内遺跡（遺跡コード 349-007）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査と整理作業の実施期間及び担当者は本文中に記述した。
- 5 本書の執筆・編集は、上席研究員 土屋潤一郎が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、東庄町教育委員会、千葉県県土整備部の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。  
第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「小南」(NI-54-19-6-1)・「神栖」(NI-54-19-5-2)  
第2図 東庄町役場作成都市計画図
- 8 周辺航空写真は、京葉測量株式会社による平成20年1月撮影（1/10,000）のものを使用した。
- 9 本書で使用した挿図の方位は、すべて座標北である。
- 10 平山堂内遺跡の基本測量は世界測地系仕様による。
- 11 本文中に使用した住居跡の主軸とは、遺構における南北方向を中心とした軸線を表わす。
- 12 挿図に使用したスクリーンパターン及び記号の内容は、以下の表記による。  
SI=住居跡、SK=土坑、SD=溝状遺構、SH=ピット群

カマド袖部分 

## 本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	1
1	調査の経緯と経過	1
2	調査の方法	1
第2節	遺跡の立地と周辺遺跡	1
1	遺跡の立地	1
2	周辺遺跡	4
第2章	平山堂内遺跡の調査	12
第1節	発掘調査の概要	12
第2節	遺構と遺物	12
1	住居跡	12
2	土坑	19
3	溝状遺構	19
4	その他の遺構・遺物	19
第3章	まとめ	28
	報告書抄録	巻末

## 表目次

第1表	土器類観察表	29
-----	--------	----

## 挿図目次

第1図	遺跡位置及び周辺遺跡 (1/25,000)	2	第10図	SI-006	13
第2図	調査範囲 (1/5,000)	3	第11図	SI-007	14
第3図	遺構分布図1 (1/500)	5	第12図	SI-008	15
第4図	遺構分布図2 (1/500)	6	第13図	SI-009	16
第5図	遺構分布図3 (1/500)	7	第14図	SI-010	17
第6図	下層グリッド配置図 (1/1,000)	8	第15図	SI-011・SI-012	18
第7図	SI-001・SI-002	9	第16図	SI-013	19
第8図	SI-003・SI-004	10	第17図	SI-014・SI-015	20
第9図	SI-005	11	第18図	SI-015遺物	21

第19図	SI-016	22	第22図	SD-001	25
第20図	SK-001～SK-005	23	第23図	SD-002～SD-005	26
第21図	SK-006・SK-007	24	第24図	SD-006・SD007・その他の遺物	27

## 図版目次

図版 1	遺跡周辺航空写真 (1/10,000)	図版 8	SK-001・SK-002・SK-003 SK-004・SK-005・SK-006 SK-007
図版 2	下層グリッド土層・遺構確認状況 SI-001・SI-002	図版 9	SD-001・SK-001・SD-002 SD-003
図版 3	SI-003・SI-004 SI-002・SI-003・SI-004	図版 10	SD-004・SD-005硬化面 SD-005
図版 4	SI-005・SI-006遺物出土状況 SI-006・SI-006遺物 SI-006カマド	図版 11	SD-006・SD-007・SH-001
図版 5	SI-007・SI-008・SI-009	図版 12	遺構内出土土器 1
図版 6	SI-007カマド・SI-009遺物 SI-010・SI-011	図版 13	遺構内出土土器 2
図版 7	SI-012・SI-013 SI-014・SI-015・SI-016	図版 14	遺構内出土土器 3
		図版 15	遺構内出土土器 4
		図版 16	金属製品・石製品

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 調査の経緯と経過

千葉県県土整備部は、香取郡東庄町平山字堂内673他において県道旭笹川線歩道整備を計画し、千葉県教育委員会に遺跡の有無を照会したところ、当該地先が平山堂内遺跡の一部に含まれることが確認されたため、千葉県教育委員会と協議の結果、事業地区内の埋蔵文化財の取扱いについて記録保存の処置を講ずることとなり、財団法人千葉県教育振興財団文化財センターが発掘調査を実施する運びとなった。

平山堂内遺跡の調査は平成19年12月1日から平成20年2月15日まで、対象面積2,598㎡のうち259㎡の上層確認調査と985㎡の上層本調査を実施し、併せて64㎡の下層確認調査を行った。なお、下層確認調査の結果、本調査は不要と判断した。

調査は、次の組織と担当者により実施した。

平成19年12月1日～平成20年2月15日

北部調査事務所長 豊田佳伸、上席研究員 鈴木弘幸

また、整理作業は以下の期間及び組織と担当者により実施した。

平成20年9月1日～平成20年9月30日、平成20年11月4日～平成20年12月26日

北部調査事務所長 豊田佳伸、上席研究員 土屋潤一郎

### 2 調査の方法

平山堂内遺跡は県道旭笹川線の東側に沿って東庄町平山字堂内683-1を北端とし同町平山字時塚1119-4を南端とする全長約550m、面積2,598㎡の南北に狭長な調査区が設定された。調査にあたっては、公共座標(国土方眼座標第Ⅹ座標系)を基準にして、 $X=-19,320$ 、 $Y=73,380$ を基点とした。この点を北西角にあて、調査対象地を覆うように、20m×20mの方眼網を設定し、これを大グリッドとした。大グリッドには、基点から東に向けてアルファベットでA～Hを、南に向けて算用数字で1～28を振り当て、2F、16Bのように呼称する。これにより、調査区北東端は1Hグリッドに、最西端は21Aグリッドに、また、最南端は28Cグリッドに位置する。さらに一つの大グリッドを2m四方の網目に細分し100の小グリッドをつくり、大グリッドの北西端を00とし、東へ一の位を送って09まで、南に十の位を送って90までとし、南東端を99とした。この大グリッドと小グリッドを組み合わせて小グリッドの呼称とし、具体的には、6E-72のように表すこととした。

調査は、まず上層の確認調査を実施し、その結果に基づいて上層本調査範囲を決定した。そして、上層本調査が終了した後、下層確認調査を実施したが、本調査を必要とする遺構・遺物は検出されなかった。

上層確認調査には基本的に1m×10mのトレンチを用いた。トレンチの配置にあたっては、道路に平行してトレンチを設け、調査区内への均等な配分を心がけた。

## 第2節 遺跡の立地と周辺遺跡

### 1 遺跡の立地

東庄町平山堂内遺跡は、下総台地の東端に近く、利根川の河口から20kmほどの距離にある右岸の台地上



第1図 遺跡位置及び周辺遺跡 (1/25,000)





第2図 調査範囲

に位置する。この台地の北側には、利根川流域に元々広がっていた湿地帯から発展した平野があり、南側に樺の海と呼ばれる太平洋に面した旧湿地帯が入り込むため、下総台地で最も台地の幅が狭まった部分である。最狭部は2kmほどにしかならない。さらに、台地の浸食が激しく、樹枝状に削られた狭長な台地が絡み合って複雑な様相を呈している。その台地上には、ほぼ全域といっても過言でないほど多数の遺跡が存在する。なお、平山堂内遺跡の位置する台地の西側にある南北に延びた谷が、東庄町と香取市の行政境である。

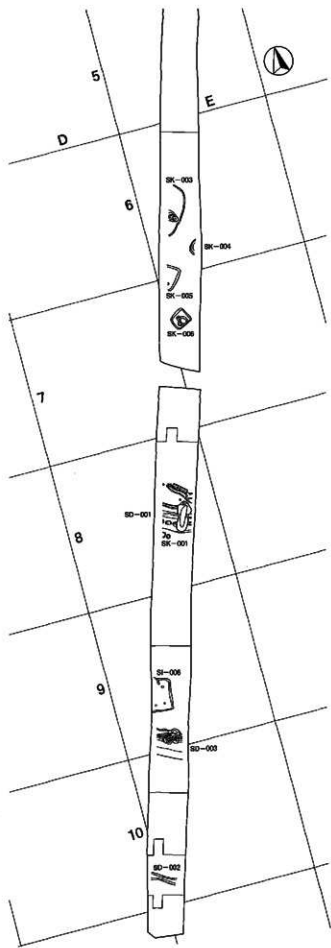
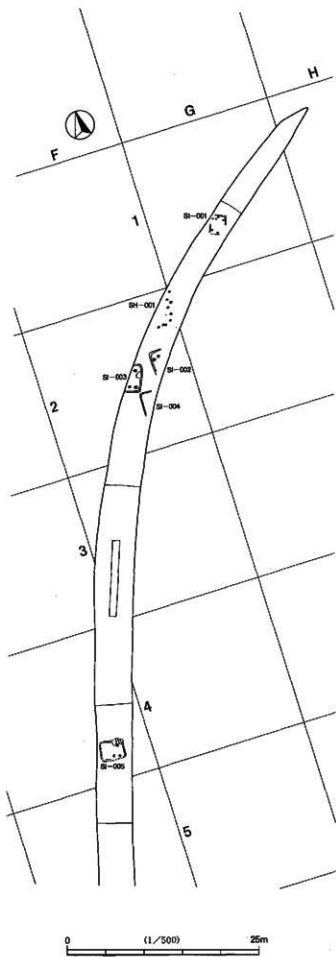
## 2 周辺遺跡（第1図）

平山堂内遺跡①のある台地は南北に長い台地であるが、周辺の台地と比較して幅広い平坦部分を持つ。その台地の東西幅が最大になる部分が平山堂内遺跡となる。北に隣接して、昭和57年に発掘調査され、奈良・平安時代の住居跡を検出した平山尾上遺跡②、南側に縄文時代及び古墳時代の遺物が採集される平山夏見遺跡③、平山大芝遺跡④と続き台地平坦面をすべて覆う。また、西側の谷を隔てた台地上に奈良・平安時代の遺跡である馬場遺跡⑤が、同じく南西500mのところに縄文時代中期～晩期の遺跡である国指定史跡良文貝塚⑥があり、西へ1.5kmの距離に同じく国指定史跡の阿玉台貝塚⑦がある。一方東側へは、三部作遺跡⑧、戸崎遺跡⑨、窪野谷吹上遺跡⑩と平安時代の遺跡が続き、更に、昭和56年に発掘調査され、弥生時代後期から古墳時代後期までの集落跡が検出された、高部宮ノ前遺跡⑪が存在する。

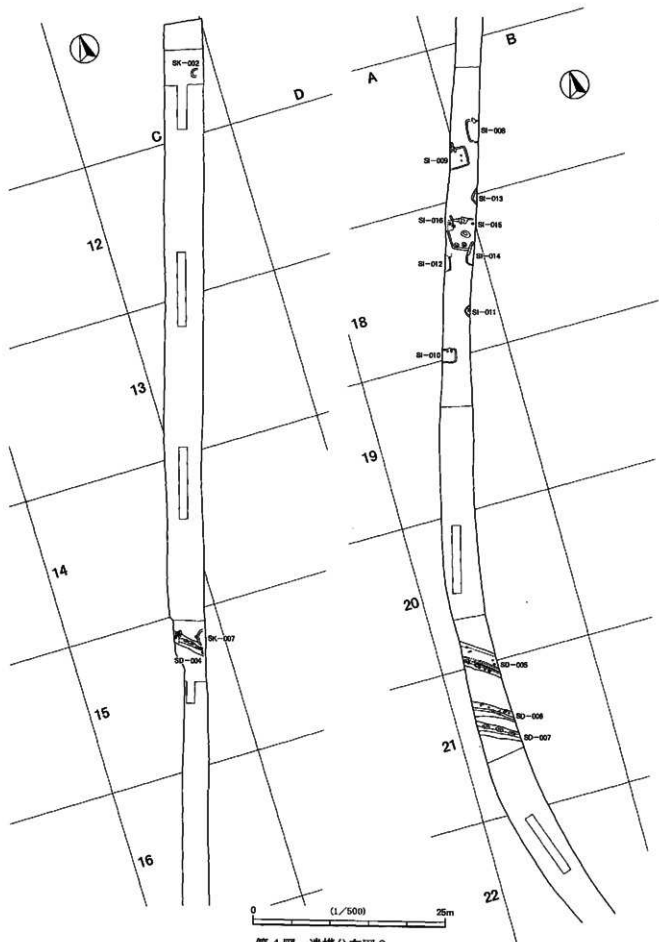
東庄は、古代末期から千葉氏の系譜に深く関わる地域であり、そのためか本遺跡の周辺にも多くの城館跡が存在する。前述の阿玉台貝塚付近に所在する伝平良文館跡⑫をはじめとして、良文の孫にあたる平忠常の居館地に比定される大友城跡⑬が南東2.5kmほどにあり、平山堂内遺跡から北側には、1218年東風頼の築城とされ、東氏が居領し後に千葉介胤富へと城主交替した森山城跡⑭、森山城と一括的に捉える考察が加えられている須賀山城跡⑮等が見られる。

## 参考文献

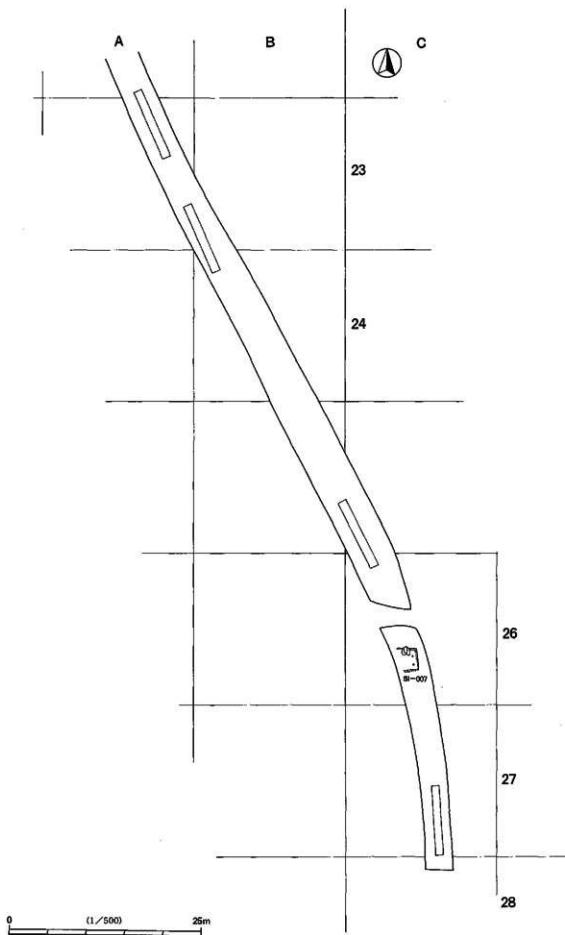
1982『東庄町史上巻』東庄町



第3図 遺構分布図1

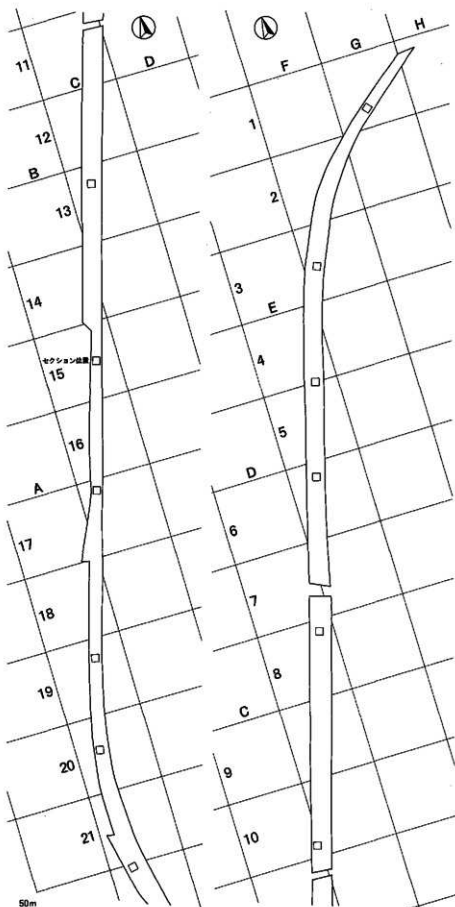
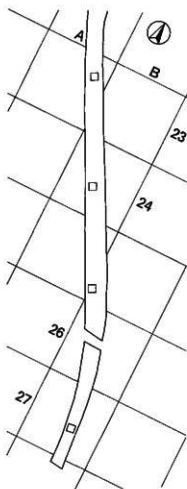
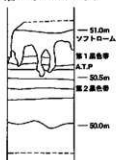


第4図 遺構分布図2

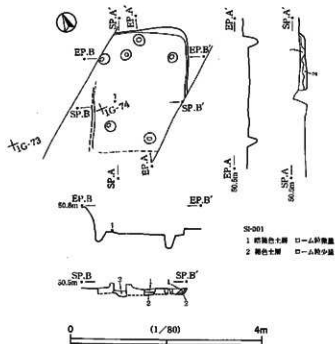


第 5 圖 遺構分布圖 3

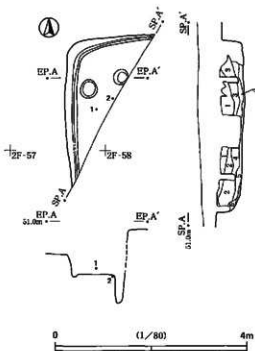
下層セクション図



第6図 下層グリッド配置図



0 (1/4) 10cm

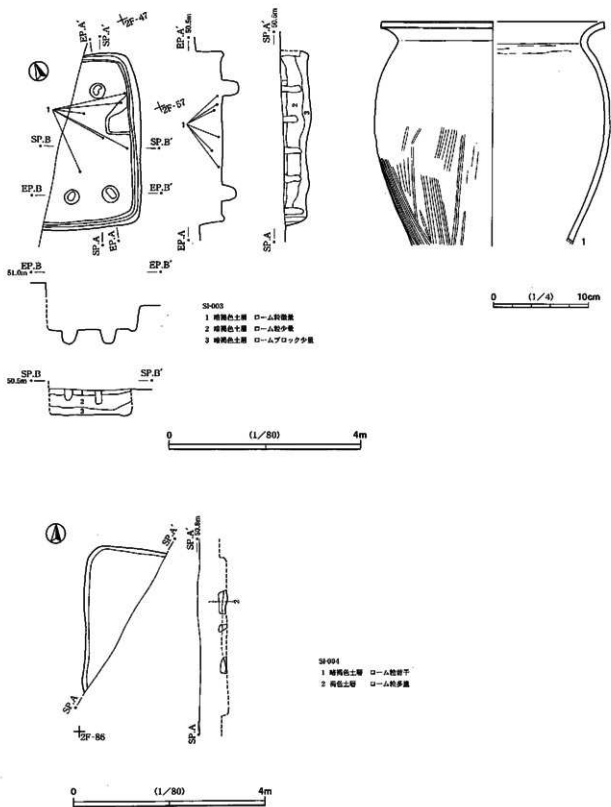


0 (1/4) 10cm



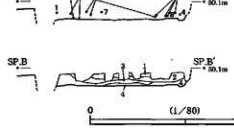
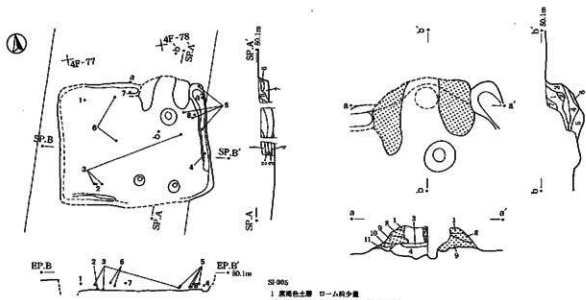
0 (1/2) 5cm

第7図 SI-001、SI-002



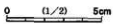
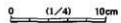
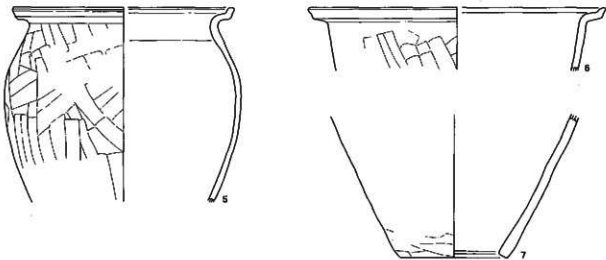
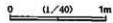
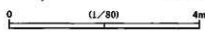
第8図 SI-003, SI-004





- SI-005
- 1 黒褐色土層 ローム粒少量
  - 2 赤褐色土層 ローム粒少量、粘土粒若干
  - 3 暗褐色土層 ローム粒多量
  - 4 黒褐色土層 ローム粒若干
  - 5 黒褐色土層 灰白色粘上、ブロック状砂
  - 6 灰白色土層 灰白色粘上土層、黒色土層下、カマド跡部分
  - 7 灰白色土層 粘土層、カマド跡部分

- SI-005カマド
- 1 灰白色 粘土及び砂、焼残物
  - 2 黒褐色 粘土粒多量
  - 3 暗褐色 焼土粒・ブロック状砂
  - 4 暗褐色 焼土粒少量、灰色土粒少量
  - 5 暗褐色 粘土粒少量
  - 6 暗褐色 粘土粒多量、ローム粒少量
  - 7 暗褐色 粘土及び砂、灰色土少量
  - 8 暗褐色 粘土及び砂、灰色土若干
  - 9 灰白色 粘土及び砂、黒色土若干
  - 10 黒色 焼土粒若干
  - 11 灰白色 粘土及び砂、黒色土若干



第9図 SI-005

## 第2章 平山堂内遺跡の調査

### 第1節 発掘調査の概要

平山堂内遺跡の調査は、道路に沿ったきわめて偏狭な調査区の中に安全対策のためさらに幅の狭い発掘区を設定することとなった。上層の確認調査においては、全体に26か所のトレンチを配置し調査をすすめ、遺構の検出された部分を中心に表土を除去し本調査を実施した。上層の遺構検出の後、16か所の2m×2mグリッドで下層の確認調査を行った。上層では古墳時代後期から平安時代にかけての住居跡16軒と、中世の道路跡等が検出されたが、下層の遺物・遺構は検出されなかった。

### 第2節 遺構と遺物

平山堂内遺跡の調査で検出された遺構は、調査対象区が細長く帯状であったためその一部のみが調査されたものがほとんどである。また、調査区が畑の一部であったことから耕作が遺構まで達している部分も多く、遺構の一部を欠くものも多い。

#### 1 住居跡

##### SI-001 (第7図 図版2・12)

SI-001は、今回の調査区でもっとも北に位置する遺構である。平面形は2.5m×2mの長方形であり、深さは、遺構確認面から8cm～12cmと浅い。方位は、長軸方向でN22°Eを示す。カマドは確認されておらず、径20cm前後で深さ16cm～28cmのピットを6か所検出している。おそらく住居の四隅に配置されたものが柱穴であろう。出土した遺物は、須恵器の杯1点である。やや底部が下がる形状であり、8世紀中葉のものである。

##### SI-002 (第7図 図版2・13)

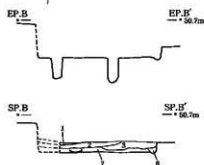
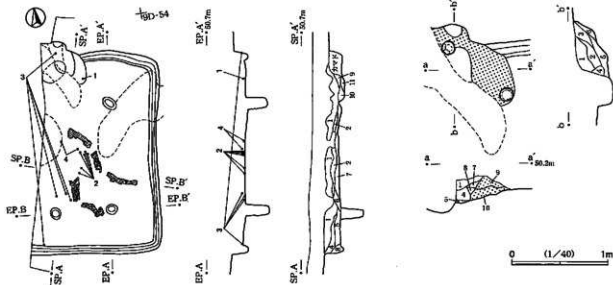
SI-002は、SI-001から南西に20mほどの位置にある。住居跡の北西コーナー一部分を検出しただけであり、全容は不明である。検出範囲は西壁3m、北壁2mであり、主軸方位はほぼ南北方向である。深さは、確認面から45cm～50cmと深く、壁溝を伴い径30cm、深さ60cmの柱穴を検出した。出土した遺物は数点で、図示できたものは少ない。1は須恵器の蓋で胎土に雲母片が含まれている。2は石製の紡錘車で、径4.0cm、高さ2.5cmのものである。

##### SI-003 (第8図 図版3・12)

SI-003は、SI-002の1.5m西側に隣接している。主軸方向はN24°Eで東に傾く。規模は南北長3.7mで、北東壁1m、南西壁2mを検出した。検出部分では壁溝が全周している。東南壁の壁溝内側に接した床面に深さ5cmほどの凹みが見られる。柱穴は2本確認され、それぞれ径35cm、深さ30cmであり、柱間は2.2mである。南西壁の中央部付近の床面に径30cm、深さ30cmのはしご穴を検出した。出土遺物1は土師器の甕である。胴上部に最大径を持ち、頸部は「く」字状に強く屈曲し短めの口縁部となっている。胴部下半に浅いミガキが施される常総型甕である。

##### SI-004 (第8図 図版3)

SI-004は、SI-002やSI-003の南に位置するが、SI-003とは0.5mほどしか離れていない。遺構の北西角の部分しか検出されず全容は不明である。検出規模は、北壁1.5m、西壁3mである。主軸方位はN5°Eで、

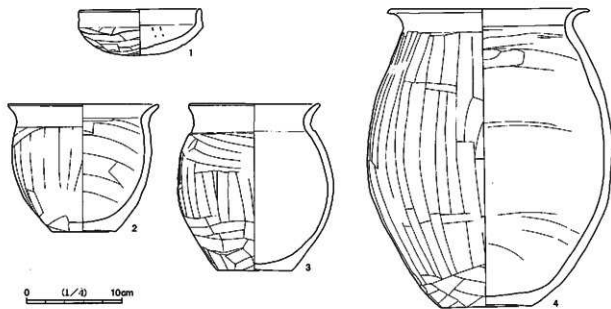
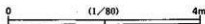


SI-006

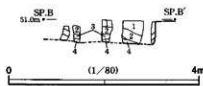
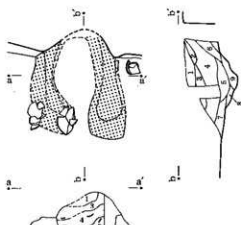
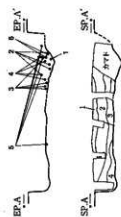
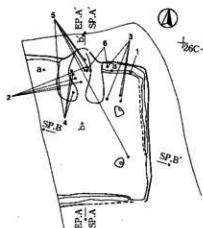
- 1 黒褐色土層 ローム粒多量、炭化粒若干
- 2 灰褐色土層 黒色土多量
- 3 暗褐色土層 ローム粒・ブロック少量、炭化粒微量
- 4 褐色土層 ローム粒多量、炭化粒若干
- 5 灰褐色 灰白色砂少量
- 6 黒褐色土層 ローム粒・ブロック若干、炭化粒少量
- 7 暗褐色土層 ローム粒、炭化粒、焼土粒少量
- 8 暗褐色土層 ローム粒少量
- 9 黒色土層 ローム粒微量
- 10 暗褐色土層 ローム・ブロック多量
- 11 黒褐色土層 ローム粒少量、焼土粒微量

SI-006方マフ

- 1 灰白色 山砂主体、礫混在
- 2 黒褐色 焼土粒多量
- 3 黒褐色 黒色土多量
- 4 赤褐色 焼土主体、三色土若干
- 5 褐色 山砂・ブロック少量
- 6 黒色 ローム粒少量
- 7 灰白色 焼土粒多量
- 8 暗褐色 山砂主体
- 9 灰白色 山砂主体、礫混在
- 10 褐色 山砂、褐色土層混在、礫混在



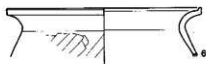
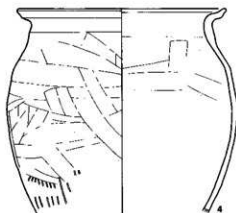
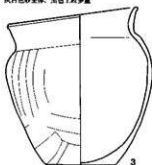
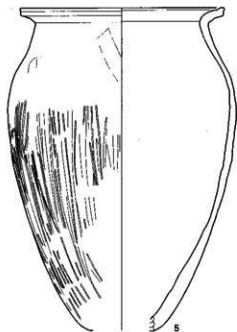
第10図 SI-006



- SI-007
- 1 暗褐色土層 ローム層・ブロック少量
  - 2 暗褐色土層 ローム粒微量
  - 3 灰褐色土層 ローム粒微量
  - 4 灰褐色土層 ロームブロック若干

- SI-007以下
- 1 灰白色 灰白色砂土層、ローム粒少量
  - 2 灰白色 灰白色砂土層
  - 3 暗褐色土層 灰白色砂土層
  - 4 灰白色 灰白色砂土層
  - 5 暗褐色土層 砂土層
  - 6 暗褐色土層 焼けたロームブロック少量
  - 7 暗褐色土層 赤変層
  - 8 暗褐色土層 ロームブロック少量
  - 9 暗褐色土層 ロームブロック少量
  - 10 灰白色 灰白色砂土層、黒色土粒若干
  - 11 灰白色 灰白色砂土層、黒色土粒少量

0 (1/40) 1m



第11図 SI-007

僅かに東へ傾く。深さは15cmほどであるが、耕作による攪乱が激しい。柱穴等は確認されず、遺物も検出されていない。

SI-005 (第9図 図版4・12)

SI-005は、調査区北端から南西100mほどの4E-77グリッドに位置する。平面形は東西長3.2m、南北長2.6mの長方形を示す。主軸方位はN5°Eである。深さは20cm~30cmで、カマドを北壁の東隅に持つ。壁溝は部分的に見られ、柱穴は検出されなかった。出土遺物は比較的多く、8世紀後半のものである。1・2は土師器杯、3・4は須恵器杯、5は大型の土師器甕、6・7は土師器甌である。8は砥石で長さ7.9cm、幅4.6cmである。

SI-006 (第10図 図版4・12)

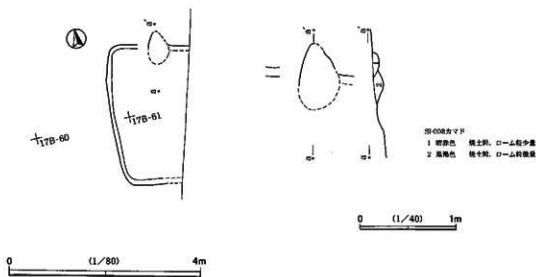
SI-006は調査区中央部のやや北、9 D-53グリッドに位置し、遺構の東半部分が検出された。主軸方位はN9°Eでやや東に傾き、北壁にカマドを持つ。規模は、主軸長4.3mで、北壁2m、南壁2.8mを検出した。深さは確認面から30cmほどで、柱穴は、北東と南東の2本を検出し、深さはそれぞれ45cm、50cmである。柱間は2.2mで、カマドと正対する南壁側に、深さ45cmのはしご穴があり、壁溝が全周する。床面に炭化材が多く遺る。出土した遺物は、土師器の杯と甕で、6世紀中葉のものであり、今回調査中唯一の古墳時代に属する遺構である。

SI-007 (第11図 図版5・12・13)

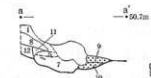
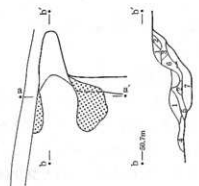
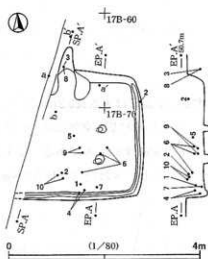
SI-007は今回の調査においてもっとも南に位置する遺構である。主軸方位はN7°Wで、やや西に傾く。主軸長は南北3.0mで、深さは40cmである。北壁にカマドを持ち、東側に2本の柱穴を検出した。柱穴の深さは25cmほどで、柱間は1.1mである。壁溝は部分的に見られ、はしご穴は検出されなかった。遺物は、土師器の杯と甕がカマド内及びその周辺から出土している。1は杯で、内外面が赤彩され体部に「寺」の墨書が見られる。5は長胴の常総型甕である。8世紀中葉の時期に比定される。

SI-008 (第12図 図版5)

SI-008は17B-51グリッド中にあり、付近は遺構が集中する。その一群中もっとも北側に位置し、西半部分が検出された。主軸の方位はN7°Eで、長さは南北3mである。深さは10cm程度と浅く、北壁にカマドの火床部が遺るのみであった。



第12図 SI-008

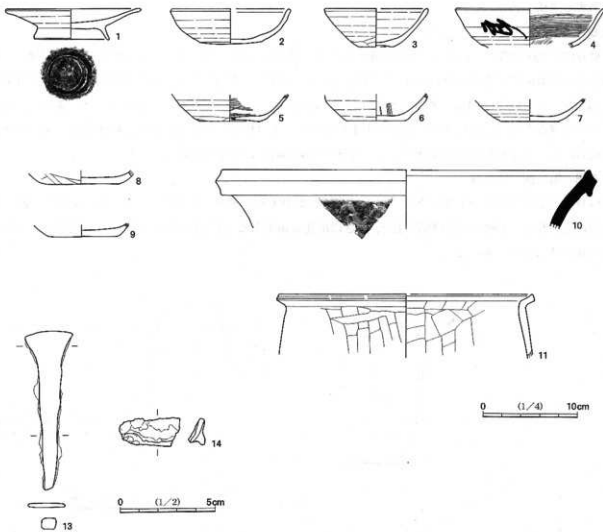


SI-009

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色土層 割作土             | 6 黒色土層 ロ-ム形跡層        |
| 2 黒褐色土層 焼土粒、ロ-ム形跡層      | 7 暗褐色土層 ロ-ム粒、褐色土粒少量  |
| 3 腐乱                    | 8 黒色土層 ロ-ム形跡層        |
| 4 黒褐色土層 砂粒少量、焼土粒、ロ-ム形跡層 | 9 灰白色土層 灰白色砂主体、カマド上部 |
| 5 黒褐色土層 焼土粒、ロ-ム形跡層      |                      |

SI-009カマド

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 1 灰白色 灰白色砂主体、カマド残存部 | 7 暗褐色 焼土ブロック主体       |
| 2 暗褐色 焼土主体          | 8 黒灰色 黒色土主体、灰白色砂少量   |
| 3 暗褐色 砂質焼土少量        | 9 黒灰色 黒色土主体、灰白色砂混入   |
| 4 黒灰色 黒色土主体、灰白色砂少量  | 10 黒色 灰白色砂若干         |
| 5 暗褐色 焼土粒中少量、黒色土粒少量 | 11 暗褐色 焼土粒中少量、黒色土粒少量 |
| 6 暗褐色 焼土粒、黒色土粒少量    | 12 ハードローム層           |



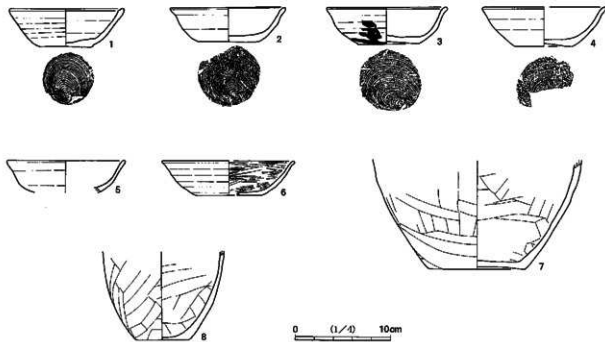
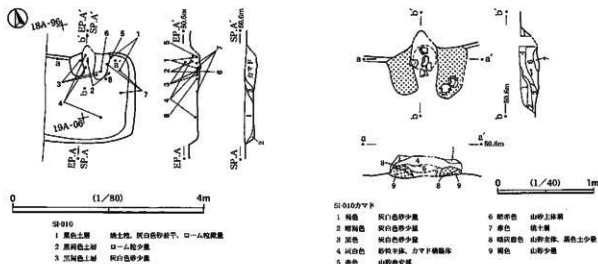
第13図 SI-009

SI-009 (第13図 図版5・6・13・16)

SI-009はSI-008の南西1mに隣接している。主軸方位はほぼ北を指し、南北長は2.7mである。北壁に煙道部の長いカマドを持つ。カマドの位置から判断して、平面形は、東西に長い長方形と考えられる。壁溝は全周せず、カマド側壁に見られない。出土遺物は、1が土師器の台付皿である。2から9は土師器の杯で、4は内面に黑色処理を施し、外面に墨書が見られる。13は鉄鍍で、祭祀用であろう。

SI-010 (第14図 図版6・13・14)

SI-010は、18Aグリッドから17Bグリッドにかけて集中する遺構群のもっとも南に位置する。主軸方位はN16°Eで東に傾く。南北長は1.9mと非常に小型の住居跡である。深さは20cmで、柱穴・壁溝等は検出されなかった。北壁にカマドを持つ。遺物はカマド内及びその周辺に集中する。9世紀末頃の土師器杯や甕が出土している。



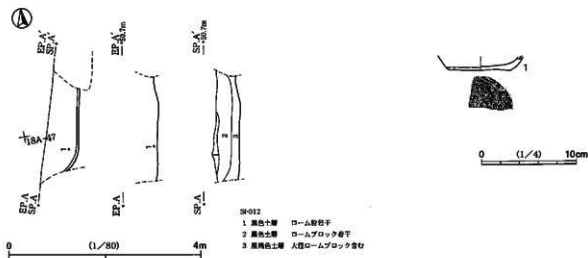
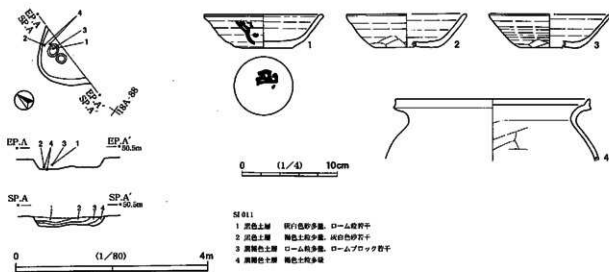
第14図 SI-010

SI-011 (第15図 図版6・14)

SI-011も18Aグリッドの遺構群の中に位置しているが、遺構の北西の角が検出されたのみである。主軸方位は、N25° Wで、西に傾く。土層断面の観察から、カマドを北壁に持ち、小型の住居跡であると推測される。深さは30cmほどで、9世紀後半の土師器杯や甕が出土している。1の杯には、体部と底部に墨書が見られる。

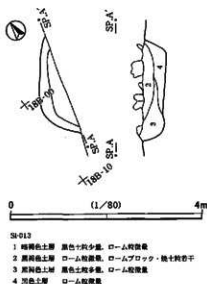
SI-012 (第15図 図版7・14)

SI-012も18Aグリッドの遺構群中に位置する。住居跡の東壁付近が検出されたが、周囲に攪乱部分が多く詳細は不明である。深さは60cmほどあり、遺物は9世紀中葉の杯が、床面近くから出土している。



第15図 SI-011・SI-012





第16図 SI-013

#### SI-013 (第16図 図版7)

SI-013はSI-009の南側3mに位置する。住居南西の角が検出されたのみで、遺物もなく詳細は不明である。掘り込みは50cmと深い。

#### SI-014 (第17図 図版7・14)

SI-014は18Aグリッドの遺構群の中央にあり、SI-015と北西角部で重複する。土層断面から本遺構がより新しいと判断される。主軸方位はN27°Eであり、南北長は3.2mほどと思われる。深さは45cmで部分的に壁溝が確認されたが、柱穴は検出されなかった。遺物は、土師器杯が出土した。1は墨書され、口縁部を打ち欠いている。9世紀後葉のものである。

#### SI-015 (第17・18図 図版7・14・15)

SI-015は、南東角でSI-014と重複し、北西角がSI-016と重複する。土層観察からどちらの遺構よりも本遺構が古いと判断される。

主軸方位はN11°Eで、北壁にカマドを持つ。南北長は4mで深さは40cmである。4本の柱穴とはしご穴を検出している。壁溝は北壁以外に見られ、床面中央付近が僅かに凹み焼けているのが観察できた。出土遺物は、9世紀後葉の土師器の杯や甕、須恵器の甎があるが、墨書杯の数が非常に多いのが特徴である。

#### SI-016 (第19図 図版7・15)

SI-016はSI-015と重複する南東角部分か検出されたのみで、遺構の全容は不明である。主軸方位はN2°Eで、ほぼ北を向く。柱穴は1本検出されたが、壁溝は認められなかった。遺物は土師器杯と甕、須恵器甎が出土している。9世紀末葉のものである。

#### 2 土坑 (第20・21図 図版8)

今回の調査では7基の土坑を検出した。そのうちSK-003～006は6E・7Eグリッドに集中している。SK-003とSK-006は特異な形状と焼土を混入する覆土のようすから、土坑墓と判断できる。SK-006からは、土師質の内耳鍋と鉄貨の小破片が出土している。SK-005は方形整穴状遺構である。SK-004とSK-007は地下式坑である。SK-007には西壁中段から外部に向けて開けられた煙突状の穴が存在する。

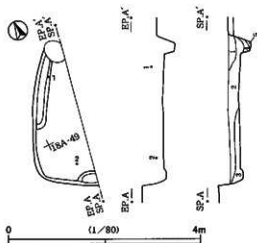
#### 3 溝状遺構 (第22～24図 図版9～11・15)

今回の調査区内には7条の溝状遺構が存在する。そのうちSD-001とSD-005は明確な硬化面を持つ道路遺構である。SD-001は道路面から土師質の内耳鍋片や小破片ではあるが常滑産の甕、古瀬戸の花瓶等が出土している。また、シジミの貝殻が底面から道路面まで出土しており、土師片とともに撒かれたものと考えられる。いくつかの破砕礫も出土しているが、五輪塔などの破片である可能性もある。SD-003からは常滑産の捏ね鉢片が出土しており、SD-006からはロクロ甕や須恵器の小破片が出土している。

#### 4 その他の遺構・遺物 (第24図 図版11・16)

SH-001は、調査区北端部近くにある直径30cm前後のピット群である。建物としての配列は見られないが、槽様の遺構となる可能性もある。

その他の遺物としては、トレンチ出土の寛永通宝1点があげられる。

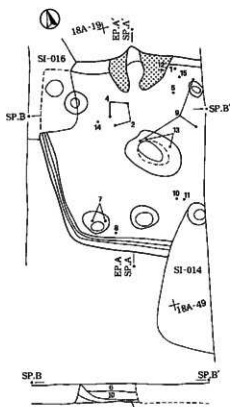


SI-014

- 1 黒褐色土層 ローム粒少量
- 2 黒褐色土層 ローム粒・ブロック少量
- 3 灰褐色土層 ローム粒多量
- 4 灰褐色土層 ローム粒少量、SI-015柱内層土
- 5 雑色土層 ローム粒多量、SI-015柱内層土



0 (1/4) 10cm



SI-015

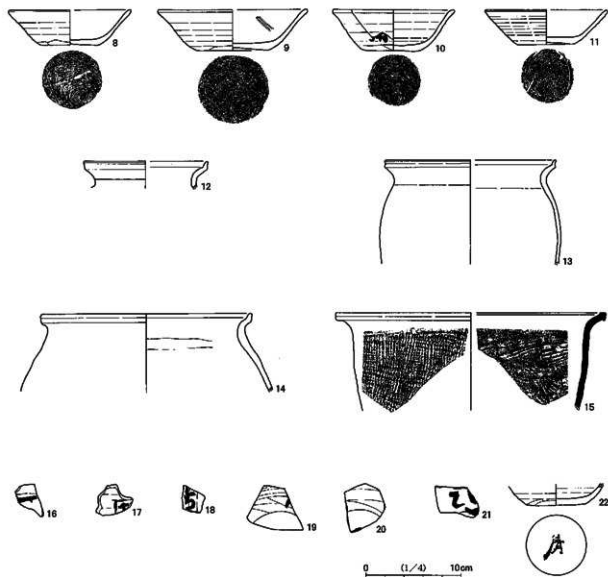
- 1 黒色土層 ローム粒無量
- 2 灰褐色土層 灰褐色土粒多量、ローム粒少量
- 3 灰褐色土層 ローム粒無量
- 4 灰褐色土層 ローム粒少量、焼土粒若干
- 5 灰褐色土層 ローム粒無量
- 6 灰褐色土層 ローム粒無量、灰白色砂堆積、焼土粒若干
- 7 雑色土層 灰褐色土粒多量、ローム粒少量
- 8 灰褐色土層 灰褐色土粒多量、ローム粒少量
- 9 灰褐色土層 灰褐色土粒多量、ローム粒若干
- 10 灰褐色土層 雑色土粒・灰白色砂少量、焼セブブロック堆積
- 11 黒色土層 ローム粒若干

0 (1/80) 4m

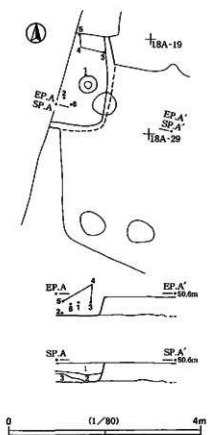


0 (1/4) 10cm

第17図 SI-014・SI-015

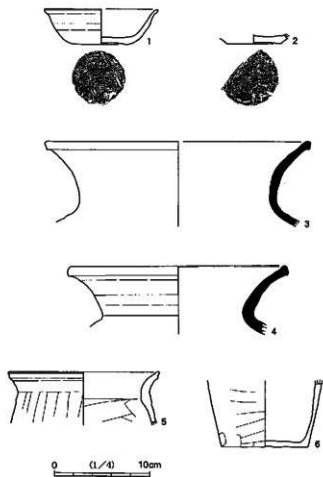


第18図 SI-015遺物

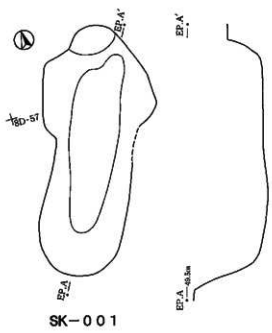


SI-016

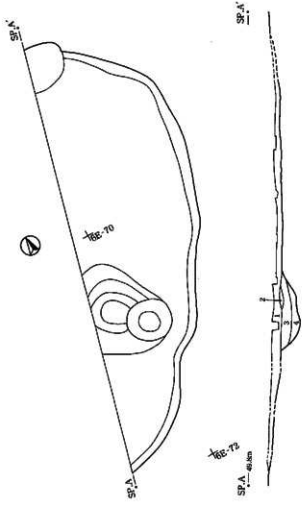
- 1 灰褐色土層 ローレン砂少量、微土粒混在
- 2 灰褐色土層 炭灰土粒多量、ローレン砂少量
- 3 灰褐色土層 炭灰土粒多量、ローレン砂・ブロック多量



第19図 SI-016

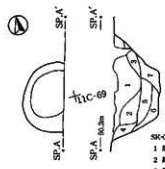


SK-001



SK-003

- 1 黒褐色土層 黒色土粒少量、ローム粒多量
- 2 黒褐色土層 ローム粒多量
- 3 黒色土層 ローム粒多量、黒色土粒少量
- 4 褐色土層 ローム粒多量、黒色土粒、炭化物含む



SK-002

- 1 黒色土層 褐色土粒多量
- 2 黒色土層 褐色土粒多量、ローム粒若干
- 3 黒色土層 褐色土粒多量
- 4 明褐色土層 ローム粒多量
- 5 灰色土層 褐色土粒多量
- 6 黒褐色土層 褐色土粒少量
- 7 黒褐色土層 褐色土粒やや多量

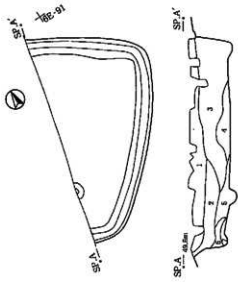


SK-004

- 1 黒褐色土層 ローム粒多量、新しい層り込み
- 2 黒褐色土層 褐色土粒多量、新しい層り込み
- 3 明褐色土層 ローム粒、炭化物多量
- 4 明褐色土層 ロームブロック含む

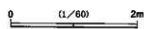
SK-005

- 5 灰白色土層 炭化物多量
- 6 明褐色土層 ローム粒、ブロック多量、炭化物含む
- 7 褐色土層 ローム粒、ブロック多量
- 8 褐色土層 7層の層り込み、炭化物
- 9 褐色土層 ローム粒多量
- 10 明褐色土層 大粒ロームブロック多量
- 11 明褐色土層 ローム粒、ブロック多量
- 12 黒褐色土層 褐色土粒若干
- 13 黒褐色土層 ロームブロック少量
- 14 黒褐色土層 ローム粒多量

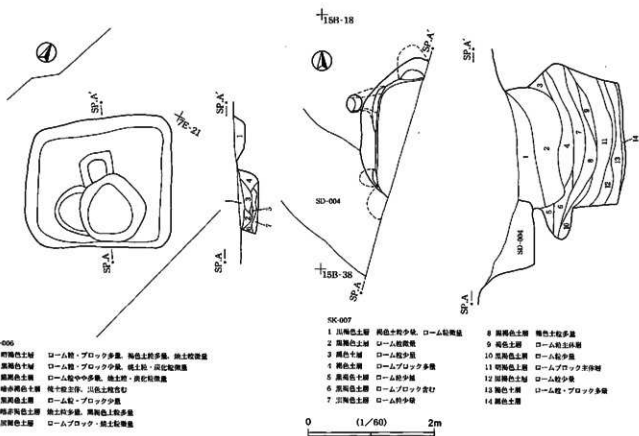


SK-005

- 1 黒色土層 ローム粒若干
- 2 黒褐色土層 ローム粒、ブロック多量
- 3 黒褐色土層 ローム粒、大粒ブロック多量
- 4 黒褐色土層 小ロームブロック多量
- 5 黒褐色土層 小ロームブロックやや多量
- 6 黒褐色土層 褐色土粒多量、ローム粒やや多量
- 7 褐色土層 ローム粒、ブロック多量、褐色土粒若干



第20図 SK-001~SK-005



SK-006

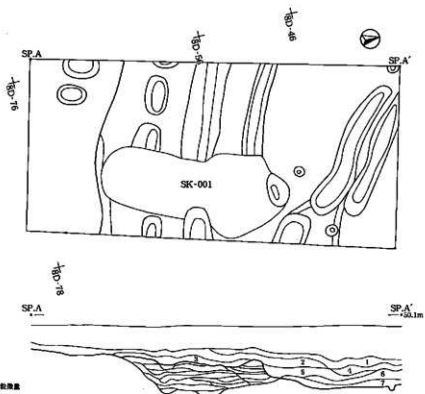
- 1 明褐色土層 ローム粒・ブロック多量、褐色土粒多量、焼土粒少量
- 2 黄褐色土層 ローム粒・ブロック少量、焼土粒・炭化粒少量
- 3 黒褐色土層 ローム粒中多量、焼土粒・炭化粒少量
- 4 暗赤褐色土層 焼土粒少量、炭化粒少量
- 5 黒褐色土層 ローム粒・ブロック少量
- 6 暗赤褐色土層 焼土粒多量、黒褐色土粒多量
- 7 灰褐色土層 ロームブロック・焼土粒少量

SK-007

- 1 灰褐色土層 褐色土粒少量、ローム粒少量
- 2 黄褐色土層 ローム粒少量
- 3 黒褐色土層 ローム粒少量
- 4 暗赤褐色土層 ロームブロック多量
- 5 黄褐色土層 ローム粒少量
- 6 灰褐色土層 ロームブロック少量
- 7 灰褐色土層 ローム粒少量
- 8 黒褐色土層 褐色土粒多量
- 9 褐色土層 ローム粒少量
- 10 灰褐色土層 ローム粒少量
- 11 明褐色土層 ロームブロック少量
- 12 明褐色土層 ローム粒少量
- 13 黄褐色土層 ローム粒・ブロック多量
- 14 黒褐色土層

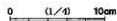
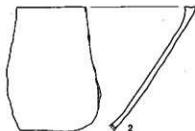
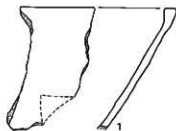
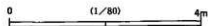
0 (1/60) 2m

第21図 SK-006・SK-007

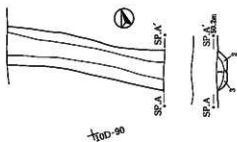


SD-001

- 1 暗褐色土層 黒色土粒少量、ローム散在量
- 2 暗褐色土層 黒色土粒少量、ローム少量
- 3 暗褐色土層 黒色土粒少量、ローム散在量
- 4 褐色土層 ローム粒少量、黒色土粒散在
- 5 褐色土層 ローム粒少量
- 6 褐色土層 ローム粒少量、ロームブロック散下
- 7 暗褐色土層 ローム粒・ブロック多量

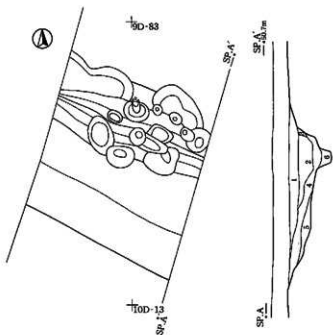


第22図 SD-001



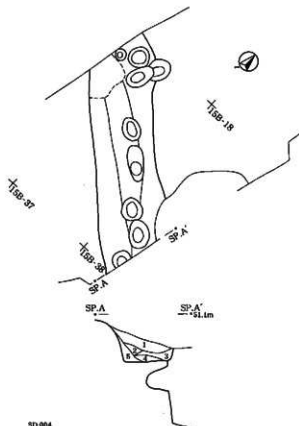
SD-002

- 1 褐色土層 ローム状微塵
- 2 黒褐色土層 ローム粒中多量
- 3 暗褐色土層 ローム粒少量



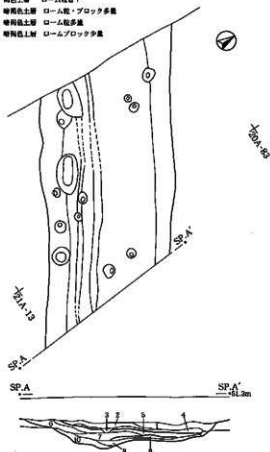
SD-003

- 1 褐色土層 褐色土粒少量、ローム状微塵
- 2 黒褐色土層 ロームブロック少量
- 3 褐色土層 ローム粒若干
- 4 暗褐色土層 ローム粒、ブロック多量
- 5 暗褐色土層 ローム粒多量
- 6 暗褐色土層 ロームブロック少量



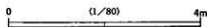
SD-004

- 1 暗褐色土層 ローム粒中多量
- 2 黒褐色土層 ローム粒少量
- 3 暗褐色土層 ロームブロック若干
- 4 黒褐色土層 ローム状微塵
- 5 暗褐色土層 ロームブロック多量



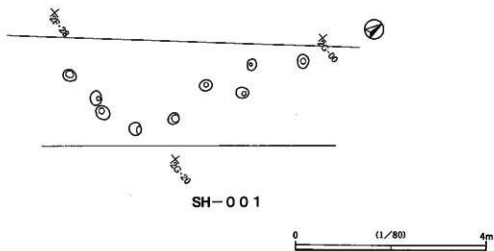
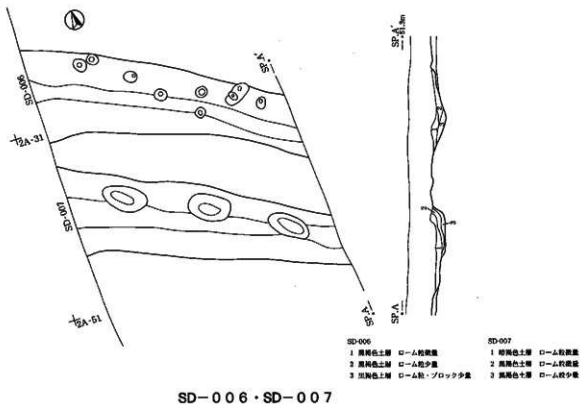
SD-005

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層
- 4 黒褐色土層
- 5 暗褐色土層
- 6 暗褐色土層
- 7 暗褐色土層
- 8 暗褐色土層
- 9 褐色土層
- 10 黒褐色土層



第23図 SD-002~SD-005





0 (1/2) 5cm

その他の遺物

第24図 SD-006・SD-007・その他の遺物

## 第3章 まとめ

### 古墳時代

今回調査した平山堂内遺跡の古墳時代遺構は、9D-53グリッドに位置するSI-006のみである。出土遺物は古墳時代後期の土師器である。

### 奈良・平安時代

今回の調査では、奈良時代と平安時代の遺構分布が明確に分かれた。奈良時代の一群は、調査区北端部近くに集中し、中央部にはこの時代の遺構はなく、南端部にSI-007が存在する。特に、SI-007からは、「寺」と墨書された8世紀中葉の赤彩杯が出土しているのが注目される。

平安時代の遺構は調査区中央部に集中し、他の部分には見られない。

### 中世

中世で注目されるのは、8Dグリッドに位置するSD-001とその北側に存在する土坑群である。これらの遺構の確認面は、周囲の遺構のそれより50cm～70cm低い。これは、SD-001の土層断面でも確認でき、このあたりの土地を掘削・整形した可能性が高い。この地域の伝承では古来から四つの寺があったとされ、最後の寺は近世まで存在したとされているが、今回の調査で検出された整形区画もこれらの寺と密接に関わっていた可能性が考えられる。また、SD-001の遺物では、土師質の在地産内耳鍋と、古瀬戸の花瓶、常滑産の甕が見られる。花瓶は、15世紀の所産と思われ、この時期の器の主流が常滑産のものから瀬戸・美濃産のものへと移り変わる様相を呈していくことと合致している。SD-001の土層から、この台地整形区画に伴って作られた道路であると考えられるため、15世紀に営まれた整形区画であると判断でき、その区画内に土坑群が存在するのである。

以上、各時代の遺構を検証すると、平山堂内遺跡の寺域としての性格が見えてくる。おそらく初現は、8世紀中葉のSI-007に「寺」の墨書が見られることにあり、当時この地域に仏教に関わる要素があったことがうかがえる。その後、SI-015の多数の墨書土器が示すように、その特質は平安時代に受け継がれ、中世には調査区中央部の整形区画や土坑群に見られるように、寺域としての性格が強く表れるのであろう。

平山堂内遺跡は、今後の房総地域における寺院研究において貴重な資料となろう。

### 参考資料

- ・1892『東庄町史上巻』東庄町
- ・2004『房総考古学ライブラリー8 歴史時代(2)』(財)千葉県文化財センター
- ・1997『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第5輯』瀬戸市埋蔵文化財センター

第1表 土器類観察表

( ) 現存長・推定長

№	遺構№	種類	器種	流量(cm)	埋存度	胎土	色調(色処理)・構成	器面調整技法など	備考
1	SI-001	須恵器	環	口径 (15.9) 底径 8.7 高さ 4.1	25%	雲母粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 黒 胎土 良好	内面 ロクロ目 外面 -	
2	SI-002	須恵器	蓋	口径 (15.2) 底径 - 高さ (2.6)	80%	雲母粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 同上 胎土 良好	内面 ロクロ目 外面 -	
3	SI-003	土師器	甕	口径 (23.3) 底径 12.7 高さ (23.7)	30%	砂粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 灰白(10YR7/3) 胎土 良好	内面 - 外面 ミガキ 胎土 良好	
1	SI-005	土師器	杯	口径 (12.7) 底径 9.8 高さ 4.2	30%	砂粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 灰白(10YR7/3) 胎土 良好	内面 - 外面 ミガキ 胎土 良好	
2	SI-005	土師器	杯	口径 (14.2) 底径 6.4 高さ 3.5	10%	砂粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 同上 胎土 良好	内面 - 外面 ケズリ	
3	SI-005	須恵器	杯	口径 (13.0) 底径 8.5 高さ 4.3	10%	雲母粒	内面 黄灰(2.5Y5/1) 外面 同上 胎土 良好	内面 - 外面 下層ケズリ 胎土 良好	
4	SI-005	須恵器	杯	口径 (14.6) 底径 8.9 高さ (4.2)	15%	雲母粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 同上 胎土 良好	内面 下層細粒ケズリ 外面 細粒ケズリ	
5	SI-005	土師器	甕	口径 (23.0) 底径 - 高さ (20.6)	位30%	砂粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 灰白(10YR7/3) 胎土 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ	
6	SI-005	土師器	甕	口径 (31.0) 底径 16.7 高さ (16.7)	口縁部20%	砂粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 同上 胎土 良好	内面 - 外面 ケズリ 胎土 良好	
7	SI-005	土師器	甕	口径 (11.4) 底径 15.2 高さ 12.6	下半30%	砂粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 同上 胎土 良好	内面 - 外面 ケズリ 胎土 良好	
1	SI-006	土師器	杯	口径 9.4 底径 8.8 高さ 4.7	95%	砂粒多量	内面 灰白(10YR7/1) 外面 灰白(10YR7/3) 胎土 良好	内面 ミガキ 外面 - 胎土 良好	
2	SI-006	土師器	甕	口径 15.5 底径 6.8 高さ 13.4	90%	砂粒多量	内面 黄灰(2.5Y5/6) 外面 同上 胎土 良好	内面 ヘラナデ 外面 ケズリ 胎土 良好	二次的焼成
3	SI-006	土師器	甕	口径 13.4 底径 7.7 高さ 17.0	90%	砂粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 暗緑 胎土 良好	内面 濃いヘラナデ 外面 ケズリ 胎土 良好	二次的焼成
4	SI-006	土師器	甕	口径 21.2 底径 9.5 高さ 31.4	95%	砂粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 同上 胎土 良好	内面 汁子 外面 ケズリ 胎土 良好	口縁部ス付着
1	SI-007	土師器	環	口径 12.7 底径 8.9 高さ 3.7	95%	砂粒	内面 赤影・黄(5YR6/6) 外面 同上 胎土 良好	内面 - 外面 下層ケズリ 胎土 良好	外部外面に磨削 「寺」
2	SI-007	土師器	環	口径 (12.0) 底径 (7.4) 高さ 3.8	25%	砂粒	内面 赤影(5YR6/6) 外面 同上 胎土 良好	内面 - 外面 下層ケズリ 胎土 良好	
3	SI-007	土師器	甕	口径 13.6 底径 7.5 高さ (17.0)	80%	黒色スコリア 少量	内面 灰白(10YR7/1) 外面 同上 胎土 良好	内面 - 外面 ケズリ 胎土 良好	
4	SI-007	土師器	甕	口径 (21.8) 底径 12.5 高さ (21.5)	70%	口縁部・胴部 砂粒	内面 黄(7.5YR6/6) 外面 同上 胎土 良好	内面 - 外面 ミガキ 胎土 良好	二次的焼成
5	SI-007	土師器	甕	口径 (21.5) 底径 7.0 高さ (24.3)	50%	雲母粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 同上 胎土 良好	内面 - 外面 ミガキ 胎土 良好	
6	SI-007	土師器	甕	口径 20.3 底径 - 高さ 5.2	口縁部50%	砂粒	内面 赤影(5YR6/6) 外面 同上 胎土 良好	内面 - 外面 ケズリ 胎土 良好	
1	SI-009	土師器	高台付 皿	口径 14.2 底径 7.7 高さ 3.3	95%	砂粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 同上 胎土 良好	内面 - 外面 胎土 良好	
2	SI-009	土師器	杯	口径 (12.2) 底径 6.6 高さ 3.7	40%	砂粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 同上 胎土 良好	内面 - 外面 ケズリ 胎土 良好	
3	SI-009	土師器	杯	口径 (17.7) 底径 3.7 高さ 4.0	30%	砂粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 灰白(10YR7/3) 胎土 良好	内面 - 外面 下層ケズリ 胎土 良好	
4	SI-009	土師器	杯	口径 (15.6) 底径 6.0 高さ (4.1)	休憩30%	雲母粒	内面 黒色結晶(10YR2/1) 外面 灰白(10YR7/1) 胎土 良好	内面 - 外面 ミガキ 胎土 良好	外面磨削
5	SI-009	土師器	杯	口径 6.3 底径 6.8 高さ (2.8)	15%	砂粒	内面 黒色結晶(10YR2/1) 外面 灰白(10YR7/3) 胎土 良好	内面 - 外面 下層ケズリ 胎土 良好	
6	SI-009	土師器	杯	口径 (12.2) 底径 6.2 高さ (2.9)	30%	砂粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 同上 胎土 良好	内面 濃いミガキ 外面 - 胎土 良好	
7	SI-009	土師器	杯	口径 6.3 底径 6.4 高さ 2.2	30%	砂粒	内面 灰(5YR6/6) 外面 灰白(10YR7/1) 胎土 良好	内面 ヘラナデ・濃いケズリ 外面 ケズリ 胎土 良好	二次的焼成
8	SI-009	土師器	杯	口径 8.2 底径 11.5 高さ 1.5	底部80%	砂粒	内面 灰白(10YR7/1) 外面 同上 胎土 良好	内面 - 外面 下層ケズリ 胎土 良好	



No.	造模機	種類	器種	寸法(cm)	造存度	粘土	色調(色相)・構成	着面調製技法など	備考
12	SI-015	土師器	甕	口径(112.8) 底径- 器高(29.9) 口径(17.9)	45%	砂粒	内面 黒色-灰黒(5YR5/2) 外面 赤黒-赤黒(5YR4/6) 形成 良好 内面 赤い黄褐(7.5YR6/3) 外面 同上	内面 - 外面 - 底外面 - 内面 -	
13	SI-015	土師器	甕	口径(111.0) 底径(21.9) 器高(8.3)	口縁部10%	砂粒	内面 赤い黄褐(7.5YR6/4) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	
14	SI-015	土師器	甕	口径(28.2) 底径(16.3)	口縁部20%	紫得粒	内面 赤い黄褐(5YR6/4) 外面 赤い黄褐(7.5YR6/3) 形成 良好	内面 タタキ目 外面 タタキ目 底外面 -	
15	SI-015	土師器	杯	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)			内面 赤い黄褐(7.5YR7/6) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	外面磨書
16	SI-015	土師器	杯	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)			内面 赤い黄褐(7.5YR7/6) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	外面磨書
17	SI-015	土師器	杯	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)			内面 赤い黄褐(7.5YR7/6) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	外面磨書
18	SI-015	土師器	杯	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)			内面 赤い黄褐(7.5YR7/6) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	外面磨書
19	SI-015	土師器	杯	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)			内面 赤い黄褐(7.5YR7/6) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	外面磨書
20	SI-015	土師器	杯	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)			内面 赤い黄褐(7.5YR7/6) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	外面磨書
21	SI-015	土師器	杯	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)			内面 赤い黄褐(7.5YR7/6) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	外面磨書
22	SI-015	土師器	杯	口径(6.3) 底径(2.3) 器高(3.7)	底部100%		内面 赤い黄褐(10YR7/4) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	下側ケズリ ケズリ
1	SI-016	土師器	杯	口径(11.9) 底径(6.0) 器高(3.7)	30%	砂粒	内面 赤い黄褐(10YR7/3) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	回転未切り
2	SI-016	土師器	杯	口径(5.7) 底径(1.1) 器高(2.5)	20%	砂粒赤褐色ス コリア粒	内面 赤い黄褐(7.5YR6/6) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	回転未切り
3	SI-016	須臾器	甕	口径(22.5) 底径(11.3) 器高(7.2)	口縁部10%	砂粒	内面 灰黄(2.5YR7/2) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	ケズリ後削カミガキ
4	SI-016	須臾器	甕	口径(22.5) 底径(11.3) 器高(7.2)	口縁部10%	砂粒	内面 灰(5Y6/1) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	
5	SI-016	土師器	甕	口径(15.7) 底径(5.7) 器高(5.7)	口縁部20%	砂粒	内面 赤い黄褐(5YR6/3) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	ケズリ
6	SI-016	土師器	甕	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)	底部90%	砂粒	内面 赤い黄褐(2.5YR6/6) 外面 赤い黄褐(5YR6/6) 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	ケズリ
1	SI-004	土師質	内耳鍋	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)			内面 赤い黄褐(7.5YR5/4) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	在地産
2	SD-001	土師質	内耳鍋	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)			内面 赤い黄褐(10YR5/3) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	在地産
3	SD-001	土師質	内耳鍋	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)			内面 赤い黄褐(5YR5/6) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	在地産
4	SD-001	土師質	内耳鍋	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)			内面 黒褐(5YR6/6) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	在地産
5	SD-001	土師質	内耳鍋	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)			内面 赤い黄褐(5YR5/4) 外面 黒褐(5YR2/1) 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	在地産
6	SD-001	陶器	花瓶	口径(17.9) 底径(8.3) 器高(16.3)			内面 灰白(5YR8/2) 外面 同上 形成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	古瀬戸

# 写 真 图 版



遺跡周辺航空写真(約1/10,000)



下層グリッド土層



遺構確認状況



SI-001



SI-002



SI-003



SI-004



SI-002  
SI-003  
SI-004



図版4



SI-005



SI-006 遺物出土状況



SI-006



SI-006 遺物



SI-006 カマ



SI-007



SI-008



SI-009

図版6



SI-007 カマド



SI-009 遺



SI-010



SI-011



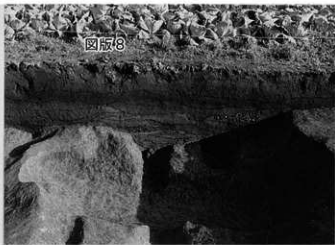
SI-012



SI-013



SI-014  
SI-015  
SI-016



SK-001



SK-002



SK-003



SK-004



SK-005



SK-006

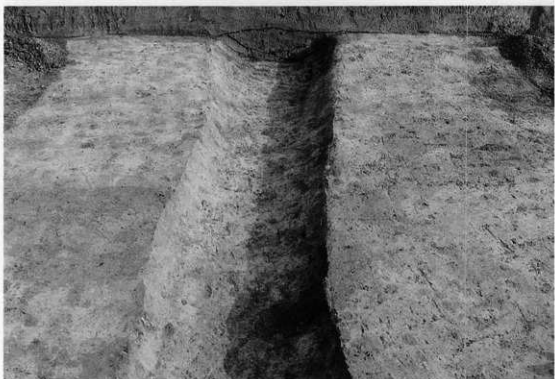


SK-007

SD-001  
SK-001



SD-002



SD-003





SD-004



SD-005 硬化面



SD-005

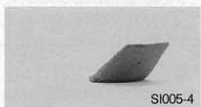
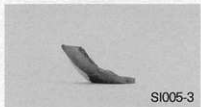
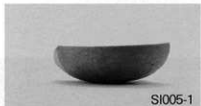
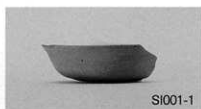




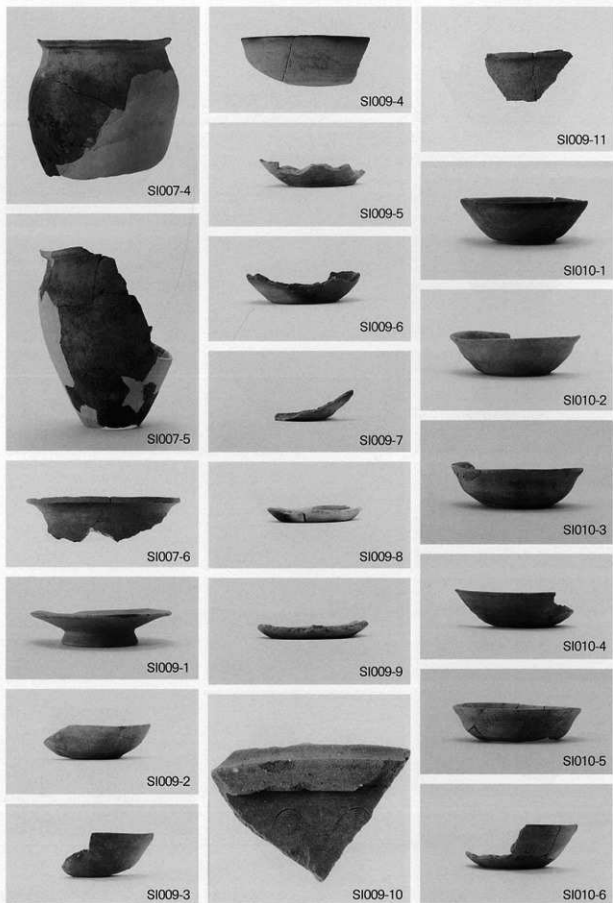
SD-006  
SD-007



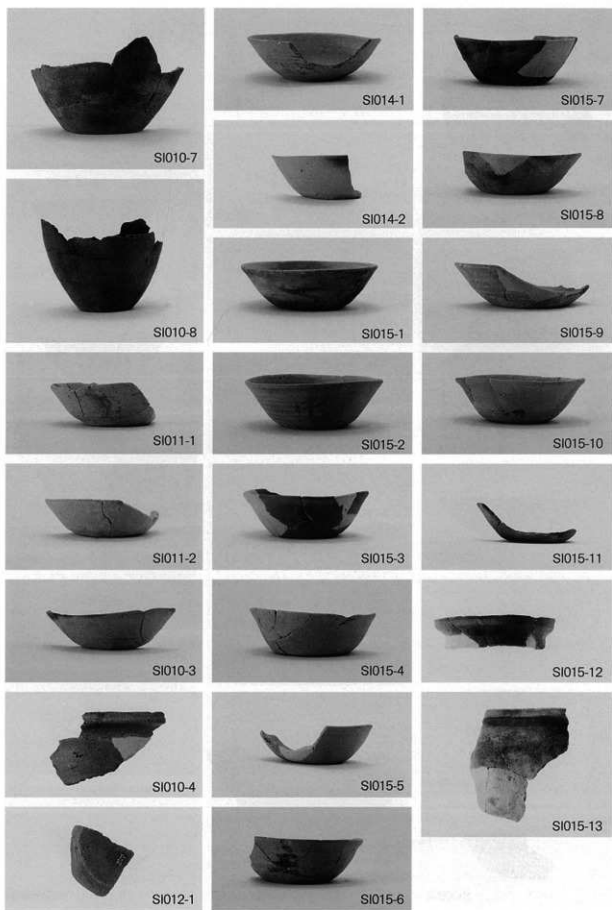
SH-001



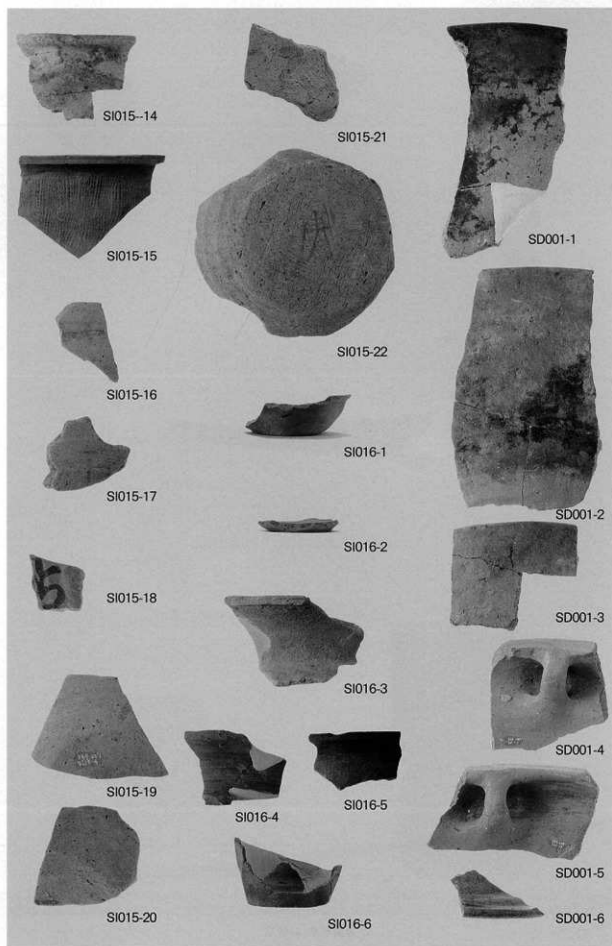
遺構内出土土器 1



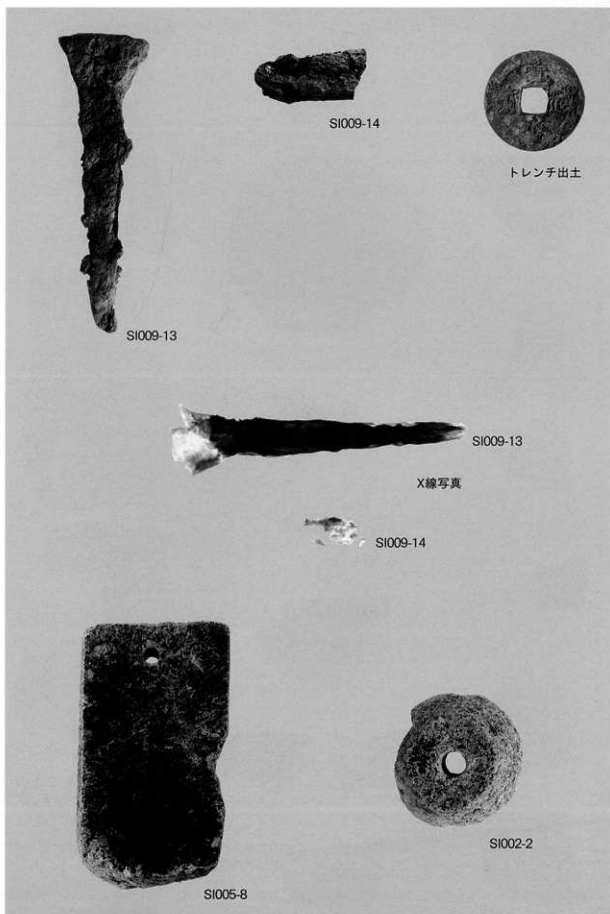
遺構内出土土器 2



遺構内出土土器 3



遺構内出土土器 4



金属製品・石製品

報告書抄録

ふりがな	とうのしょうまちひらやまどうないせき							
書名	東庄町平山堂内遺跡							
副書名	地方道路交付金委託（旭笹川線）埋蔵文化財調査報告書							
巻次	1							
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告							
シリーズ番号	第619集							
編著者名	土屋潤一郎							
編集機関	財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター TEL043 (424) 4848							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2							
発行年月日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ひらやまどうない 平山堂内遺 跡	あとりてんとうしょうまちひらやまどうない 香取郡東庄町平山 あまどうない 字堂内673ほか	12349	007	35度 49分 05秒	140度 38分 57秒	20071201～ 20080215	2,598㎡	地方道路交付金 委託（歩道整備） （東庄）に伴う 埋蔵文化財調査
				世界測地系				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
平山堂内遺跡	集落跡	古墳時代  奈良・平安時代  中・近世	住居跡  住居跡・ピット群  溝状遺構・方形竪穴 状遺構・地下式坑・ 土坑・土坑墓		土師器  土師器・須恵器  陶磁器・石製品			
要 約	今回の調査においては、平山堂内遺跡の寺域としての性格が、明確にされた。かねてより、この地域においては、墨書土器が散見でき注目されていたが、8世紀中葉の住居跡から出土した「寺」と書かれた墨書土器は、この地域が極めて早い時期から仏教と関わったことを示し、平安時代を経て中世には信仰の地としての性格を強く表していたと考えられる調査結果となった。							

千葉県教育振興財団調査報告第619集

## 東庄町平山堂内遺跡

— 地方道路交付金委託（旭笹川線）埋蔵文化財調査報告書 —

---

平成21年3月25日発行

編 集	財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター
発 行	千葉県県土整備部 千葉市中央区市場町1番地の1 財団法人 千葉県教育振興財団 四街道市鹿渡809番地の2
印 刷	三陽工業株式会社 市原市五井5510-1

---